

# 株主の皆さまへ

## 第96期中間報告書

(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)

**東芝機械株式会社**

Best Partner of Leading Industries

証券コード：6104

## 株主の皆さまへ



株主の皆さまには、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。

ここに、株主の皆さまへ（第96期中間報告書）をお届けするにあたり、ひと言ごあいさつ申し上げます。

取締役社長 三上高弘

### 当第2四半期の状況と業績

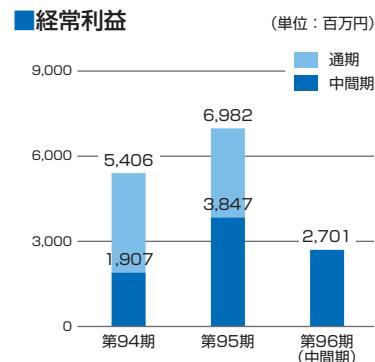
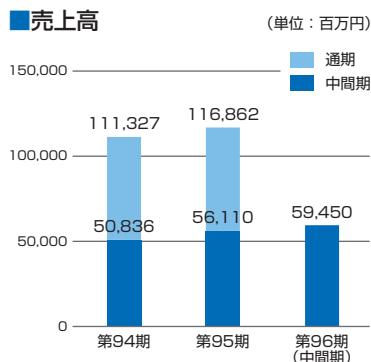
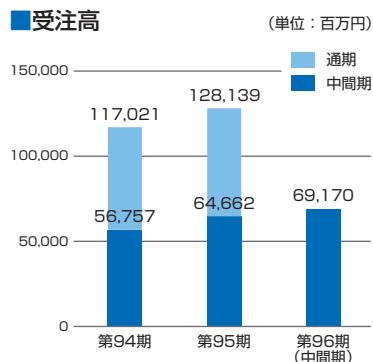
当第2四半期連結累計期間における国内の景気は、政府の経済政策等により企業収益や雇用情勢、所得環境が改善するなど緩やかな回復基調を継続いたしました。海外の景気も緩やかな回復基調で推移いたしましたが、新興国経済の見通しや地政学リスク、海外の通商政策の動向が懸念材料となっているなど、世界経済は先行き不透明な状態が続いております。

当社グループが属する機械業界につきましても、国内

の設備投資は緩やかながら回復傾向を示しているものの、海外は対象とする市場や製品により景況感に差異が生じております。

このような経済環境のもとで、当社グループは中期経営計画「TM-PΣ Plan」(Toshiba Machine Profit Sigma Plan)を平成28年4月1日からスタートさせ、これまでの「先進と拡張」の考えを継承しつつ、新たに「高収益体質への変革」と「選択と集中」を基本方針と

### 業績ハイライト



いたしました。今後成長が見込めるグローバル市場において、当社グループが着実に成長していくための諸施策として、総原価の低減、収益性改善に向けた生産革新活動、グローバルな最適調達網の構築、新市場の開拓、国内外の注力市場に向けた新商品の開発、受注の拡大等に全力をあげ、取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の受注高は691億7千万円（前年同期比7.0%増）、売上高は、594億5千万円（前年同期比6.0%増）となりました。損益につきましては、一部の大型製品における販売時期の調整、部材価格高騰に伴う原価率の悪化および部材の調達遅れ等による生産効率の悪化に加えて、生産体制構築のための費用の増加を受けて、営業利益は16億1千9百万円（前年同期比8.1%減）、経常利益は、昨年あった受取解約金による営業外収益の反動を受けて27億1百万円（前年同期比29.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、19億3千3百万円（前年同期比31.1%減）となりました。

## 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行なった結果、平成30年5月9日公表の予想を修正いたしました。詳細は、平成30年11月

8日に公表いたしました「平成31年3月期第2四半期累計期間の業績予想数値と実績値の差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 配当について

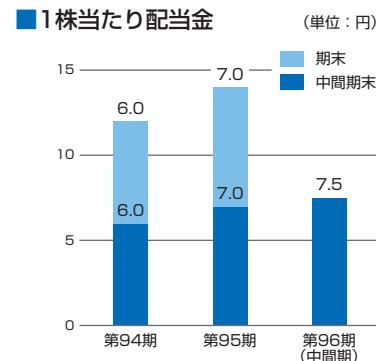
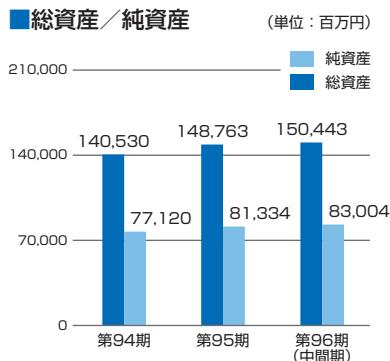
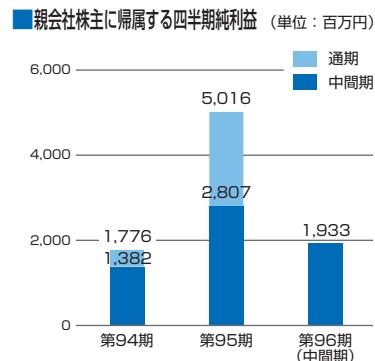
当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。利益剰余金につきましては、財務体質を強化しつつ、企業の継続的発展のため将来の事業展開等を戦略的に判断し、生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していくとともに、継続して株主の皆さまへの適正な利益還元を実施してまいります。

なお、当期中間配当金につきましては、1株につき7.5円※とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

※当社は、平成30年10月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しておりますが、当中間期の配当は、株式併合前の株式に対してお支払いいたします。

平成30年12月



## 事業別の概況

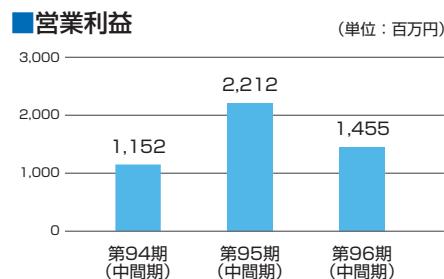
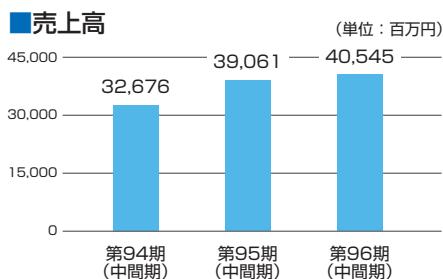
### 成形機事業（射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など）

射出成形機におきましては、販売は、国内、北米、東南アジアおよびインドの自動車向けを中心に堅調に推移し、受注は、国内、北米、中国、東南アジアの自動車向けを中心に堅調に推移いたしました。

自動車・二輪車向けを主な供給先とするダイカストマシンにおきましては、販売は、国内、北米、中国および東南アジアが堅調に推移し、受注は、国内、北米および中国が堅調に推移いたしました。

押出成形機におきましては、販売は、中国の二次電池向けシート・フィルム製造装置の販売時期の調整を受けて大きく減少いたしました。受注は、国内の光学向けシート・フィルム製造装置の需要はあったものの、中国の二次電池向けシート・フィルム製造装置の需要調整を受けて、大きく減少いたしました。

この結果、成形機事業全体の受注高は、458億8百万円（前年同期比5.0%減）、売上高は、405億4千5百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益は、14億5千5百万円（前年同期比34.2%減）となりました。

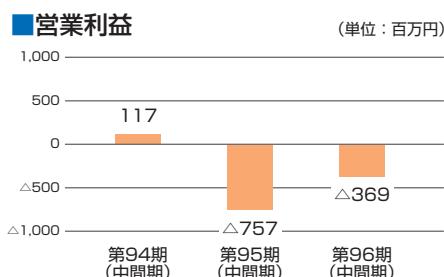
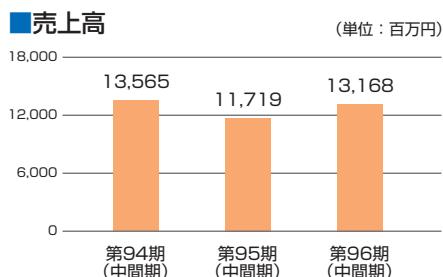


### 工作機械事業（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤、精密加工機など）

工作機械におきましては、販売は、国内の機械部品加工や造船向けおよび北米、中国の産業機械向けを中心に増加いたしました。部材の調達遅れによる売上高への影響は継続いたしました。受注は、国内の自動車・金型を含む産業機械や建機向けおよび北米の産業機械向けを中心に増加いたしました。

精密加工機におきましては、国内・中国を中心とした光学用金型向けに、販売と受注が堅調に推移いたしました。

この結果、工作機械事業全体の受注高は、175億7千2百万円（前年同期比66.9%増）、売上高は、131億6千8百万円（前年同期比12.4%増）、営業損失は、3億6千9百万円（前年同期は営業損失7億5千7百万円）となりました。

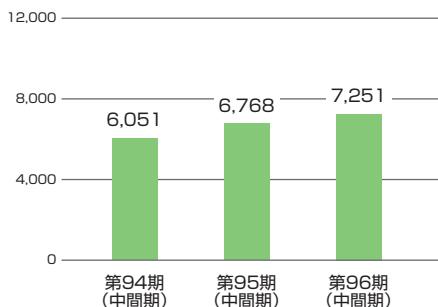


## その他の事業（産業用ロボット、電子制御装置など）

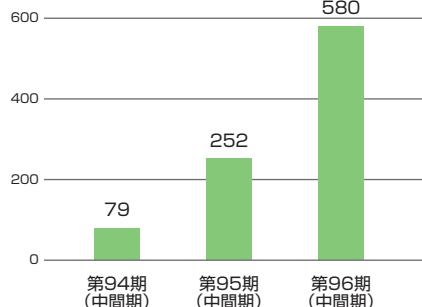
産業用ロボットにおきましては、東アジアを中心とした電子デバイス・スマートフォン等の組立自動化設備向けは調整局面にありますが、国内の自動車等の自動化関連設備向けを中心に、販売と受注が堅調に推移いたしました。

この結果、その他の事業全体の受注高は、57億8千9百万円（前年同期比2.3%減）、売上高は72億5千1百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は、5億8千万円（前年同期比130.3%増）となりました。

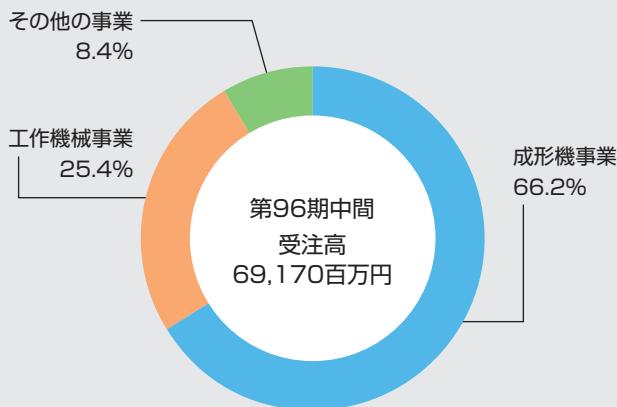
■売上高 (単位：百万円)



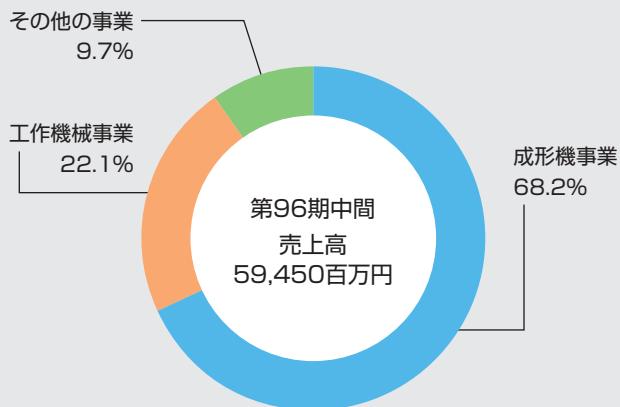
■営業利益 (単位：百万円)



事業別受注高構成比率



事業別売上高構成比率



# 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第96期中間期 (平成30年9月30日現在)	第95期 (平成30年3月31日現在)	科 目	第96期中間期 (平成30年9月30日現在)	第95期 (平成30年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>			<b>負 債 の 部</b>		
<b>流 動 資 産</b>	108,463	107,207	<b>流 動 負 債</b>	53,466	57,827
現金及び預金	27,611	30,394	支払手形及び買掛金	28,804	29,835
受取手形及び売掛金	40,385	38,531	短期借入金	10,090	14,390
有 価 証 券	132	404	未払法人税等	638	865
商品及び製品	11,028	8,811	未 払 費 用	5,302	5,247
仕 掛 品	26,722	24,765	製品保証引当金	646	597
原材料及び貯蔵品	68	78	その他の流動負債	7,985	6,890
その他の流動資産	2,602	4,290	<b>固 定 負 債</b>	13,972	9,601
貸倒引当金	△ 87	△ 67	長期借入金	4,300	—
<b>固 定 資 産</b>	41,979	41,555	長期未払金	5	5
<b>有形固定資産</b>	20,865	21,305	繰延税金負債	144	113
建物及び構築物	11,644	11,944	役員退職慰労引当金	25	30
機械装置及び運搬具	2,028	2,167	退職給付に係る負債	9,329	9,312
土 地	6,462	6,450	資産除去債務	50	50
リース資産	112	76	その他の固定負債	115	89
建設仮勘定	68	105	<b>負 債 合 計</b>	67,439	67,428
その他の有形固定資産	548	560	<b>純資産の部</b>		
<b>無形固定資産</b>	668	740	<b>株 主 資 本</b>	78,391	77,164
その他の無形固定資産	668	740	資 本 金	12,484	12,484
<b>投資その他の資産</b>	20,445	19,510	資本剰余金	11,538	11,538
投資有価証券	19,132	18,255	利益剰余金	70,742	69,514
長期貸付金	17	19	自 己 株 式	△ 16,374	△ 16,373
繰延税金資産	625	544	<b>その他の包括利益累計額</b>	4,612	4,170
その他の投資	747	769	その他有価証券評価差額金	3,824	3,684
貸倒引当金	△ 77	△ 77	繰延ヘッジ損益	2	2
<b>資 産 合 計</b>	150,443	148,763	為替換算調整勘定	1,823	1,606
			退職給付に係る調整累計額	△ 1,036	△ 1,123
			<b>純 資 産 合 計</b>	83,004	81,334
			<b>負債・純資産合計</b>	150,443	148,763

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第96期中間期	第95期中間期
	(平成30年4月1日から 平成30年9月30日まで)	(平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで)
売 上 高	59,450	56,110
売 上 原 価	43,127	40,066
売 上 総 利 益	16,322	16,043
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	14,703	14,280
営 業 利 益	1,619	1,762
営 業 外 収 益	1,298	2,368
営 業 外 費 用	217	283
経 常 利 益	2,701	3,847
特 別 利 益	87	8
特 別 損 失	13	9
税金等調整前四半期純利益	2,774	3,846
法人税、住民税及び事業税	934	1,200
法人税等調整額	△ 93	△ 161
四 半 期 純 利 益	1,933	2,807
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,933	2,807

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第96期中間期	第95期中間期
	(平成30年4月1日から 平成30年9月30日まで)	(平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,986	6,434
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 560	△ 1,704
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 862	△ 988
現金及び現金同等物に係る換算差額	217	260
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,192	4,001
現金及び現金同等物の期首残高	30,798	30,060
非連結子会社との合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	138	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	27,744	34,061

## 連結財務諸表のポイント

### 資 産

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ16億8千万円増加し、1,504億4千3百万円となりました。増加の主な内訳は、現金及び預金が27億8千3百万円減少したものの、商品及び製品が22億1千7百万円、仕掛品が19億5千7百万円増加したこと等によります。

### 負 債

負債は、前連結会計年度末に比べ1千1百万円増加し、674億3千9百万円となりました。増加の主な内訳は、未払費用が5千5百万円増加したこと等によります。

### 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ16億7千万円増加し、830億4百万円となりました。増加の主な内訳は、利益剰余金が12億2千8百万円、為替換算調整勘定が2億1千7百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は55.2%となりました。

### キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ30億5千4百万円減少し、277億4千4百万円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、19億8千6百万円の減少になりました。これは主として、たな卸資産の増加による支出41億3千万円、前受金の増加による収入11億6千7百万円等があったことによります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、5億6千万円の減少になりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出2億9千6百万円等があったことによります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、8億6千2百万円の減少になりました。これは主として、配当金の支払額8億4千4百万円等があったことによります。

## ■新型横形マシニングセンタ BM-1000Qを開発（高効率加工の追求でお客様の現場生産性向上に貢献）

当社は、自動車産業で求められるダイカスト金型などに対応した横形マシニングセンタBM-1000Qを開発しました。本機は、クイルが移動するW軸仕様を標準装備し、刃物の接近性を高めることによる最適条件加工を実現することで、製造現場の生産性向上に貢献します。

<主な特長>

・高速かつ重切削に対応

高速横形マシニングセンタに横中ぐり盤の利点であるクイル軸を搭載し、工具の接近性を高め、従来機比で1.4倍の高速重切削加工が可能になりました。

・省スペースながら大型ワークに対応、高効率加工を実現

機械設置面積はクラス最小スペースながら、質量3トン（OP：4.5トン）の大型ワーク加工に対応しました。ツインドライブ機構の採用により高速・高精度・高応答性を実現しました。また、ロータリーシャトル方式APCの採用によるワーク交換時間の従来比40%短縮を実現し、高効率なワーク加工を実現します。

・オペレータにやさしいスマートCNCを搭載

機械の診断機能を充実させた新開発の自社製CNC「TOSNUC PX200」を採用、当社独自のIoTの取り組みである「IoT+m」との連携で機械の稼働率を高め、製造現場の生産性を向上します。

本機は9月10日（月）～15日（土）まで開催された『IMTS2018』および、11月1日（木）～6日（火）まで開催された『JIMTOF2018』に出展し、多くのお客さまから高評価をいただきました。



横形マシニングセンタ「BM-1000Q」



JIMTOF2018での展示

## ■超精密立形加工機UVMシリーズのマイナーチェンジ機を開発（機械操作性の改善で生産性向上に貢献）

当社は、ご好評いただいております超精密立形加工機UVMシリーズのマイナーチェンジ機を開発し、販売を開始しました。今回開発した本機は、お客さまからのご要望やご意見を受けて、操作性や機能性を大幅に改善し、お客さまの生産性向上に貢献します。

<主な特長>

・磨き工程レスの鏡面加工仕上げを実現

本機は、自動車クリアランスランプ導光体やランププリフレクタなど、大形かつ複雑形状で5軸加工が必要な光学部品金型に対して、表面粗さ10ナノメートルレベル（1mmの10万分の1）の鏡面加工を実現、磨き工程レスによる生産性向上に寄与します。

・大画面操作パネルの採用により操作性・機能性を向上（UVM-450D（H）、UVM-700E（5AD））

21.5インチの大画面操作パネルの採用で視認性を向上させるとともに、従来PC操作だった総合支援ソフトUVM-TSAをNC画面に統合することで操作性・機能性を大幅に向上しました。UVM-TSAの標準搭載でPCレスとなり、設置面積25%削減の省スペース化を実現しました。

・対ワーク接近性・操作性を改善した新カバーの採用

従来機より作業者の接近性を20mm向上し、天井扉の追加により機内への大型ワークの納入操作を改善した新カバーをUVMシリーズ全機種に採用しました。油漏れ対策など現場の環境改善にも配慮しました。

本機は11月1日（木）～6日（火）まで開催された『JIMTOF2018』に初出展し、多くのお客さまから高評価をいただきました。



超精密立形加工機「UVM-700E(5AD)」



JIMTOF2018での展示

## ■IMTS2018シカゴ国際工作機械見本市に出展

9月10日(月)～15日(土)までの6日間、米国シカゴのMcCormick Placeにてシカゴ国際工作機械見本市(IMTS2018)が開催されました。本展示会は、2年ごとに開催される北米最大の見本市です。

当社は、本展示会が初出展となる高剛性・高精度の最新横形マシニングセンタ「BM-1000Q」と北米で多数の販売実績を持つ立旋盤「TUE-200(S)」の実機展示を行ないました。「BM-1000Q」には、エネルギー向けのサンプルワークを実機搭載することで、よりお客さまがイメージしやすい展示内容としました。「TUE-200(S)」には、航空機のエンジンケースを実機搭載して展示し、さらに近年注目されている3D積層装置で造形したエンジンファンケースの実物展示も行なうことで、航空機産業にもPRしました。

また、展示機の稼働状況を機械から離れたところで確認できる稼働監視モニタを展示した特設ブースを設け、お客さまに当社の最新技術を体感していただくことで、当社の技術力を効果的にPRすることができました。

開催期間中、当社ブースには約500名もお客さまにご来場いただき、幅広い質問をいただくなど、各業界全体の注目度がうかがえる展示会となりました。



IMTS2018 会場風景



立旋盤「TUE-200(S)」

## ■第13回中国国際圧鑄会議・展示会に出展

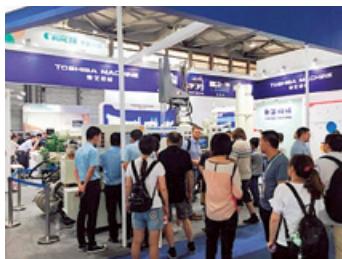
7月18日(水)～20日(金)までの3日間、中国の上海新国際博覧中心にて第13回中国国際圧鑄会議・展示会が開催されました。

本展示会は、中国でのダイカスト業界で最大規模であり、業界に関連するメーカーは約350社が出展し、ダイカストマシンメーカーは約25社が出展しました。

当社は、ダイカストマシンRシリーズ「DC350R-MX」を展示し、全自動空運転および、d-PAQET\*により収集した鑄造データや波形データをブース内モニタに表示させて、管理面の強化をPRしました。

開催期間中、当社ブースには約500名のお客さまにご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。本展示会でいただいた多くの引き合いを今後の受注へと繋げてまいります。

\*d-PAQET：マシンの状態を監視可能なPCソフトウェア



中国国際圧鑄会議・展示会 会場風景



## ■株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、インターネットでのアンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします(裏表紙ご参照)。

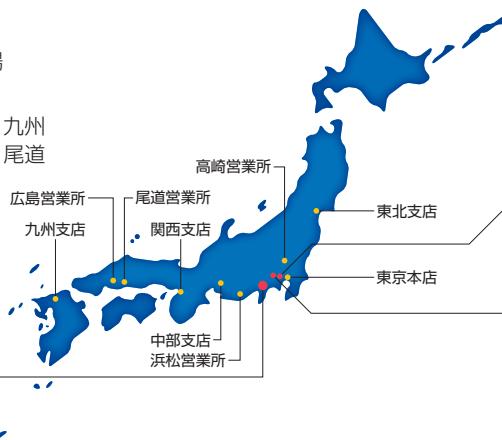
# グローバルネットワーク (平成30年9月30日現在)

## 国内拠点

- 本社・製造拠点** ● **本社** 沼津  
 ● **工場** 沼津、相模、御殿場  
**販売拠点** ● **本店** 東京  
 ● **支店** 東北、中部、関西、九州  
 ● **営業所** 高崎、浜松、広島、尾道



沼津工場（本社）



相模工場



御殿場工場

## 海外拠点

- 製造拠点** ● **工場** 上海、インド、タイ  
**販売拠点** 全43拠点  
 ● **東アジア** 10拠点  
 ● **東南アジア** 25拠点（インド18拠点含む）  
 ● **北米・中南米** 7拠点  
 ● **欧州** 1拠点

- **東アジア統括**  
 SHANGHAI  
 TOSHIBA MACHINE CO., LTD.  
 ● **上海工場**  
 TOSHIBA MACHINE  
 (SHANGHAI) CO., LTD.



- **インド工場**  
 TOSHIBA MACHINE  
 (CHENNAI) PRIVATE LIMITED



- **欧米統括**  
 TOSHIBA MACHINE  
 COMPANY, AMERICA



- **タイ工場**  
 TOSHIBA MACHINE MANUFACTURING  
 (THAILAND) CO., LTD.



- **東南アジア統括**  
 TOSHIBA MACHINE  
 (THAILAND) CO., LTD.

# 会社の概況／株式の状況 (平成30年9月30日現在)

## 会社の概況

- ① 所在地  
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号
- ② 創業  
1938年(昭和13年)12月
- ③ 設立  
1949年(昭和24年)3月
- ④ 資本金  
124億8千4百万円
- ⑤ 従業員数  
連結：3,363名(前期末比90名増)  
単独：1,799名(前期末比29名増)
- ⑥ 役員(平成30年12月1日現在)

代表取締役会長 最高経営責任者	飯村幸生
代表取締役社長 最高執行責任者 社長執行役員	三上高弘
代表取締役 専務執行役員	坂元繁友
取締役 上席常務執行役員	小林昭美
取締役 常務執行役員	小池純
取締役 常務執行役員	後藤英一
社外取締役	小倉良弘
社外取締役	佐藤潔
社外取締役	岩崎清悟
常勤監査役	牧野輝幸
常勤監査役	高橋宏
監査役	宇佐美豊

(注) 常勤監査役 牧野輝幸氏、監査役 宇佐美豊氏は社外監査役であります。

## 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 360,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 149,885,530株  
(自己株式29,205,601株含む)
- (3) 株主数 10,092名  
(前期末比1,677名増)

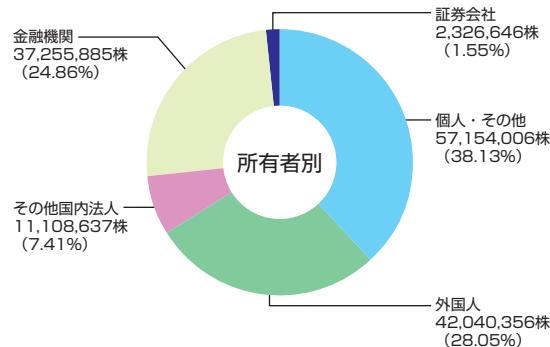
(注) 平成30年10月1日付株式併合により、発行可能株式総数は72,000,000株、発行済株式の総数は29,977,106株となりました。

### (4) 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	7,937千株	6.58%
日本マスタートラスト信 託銀行株式会社(信託口)	6,583	5.46
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505253	4,633	3.84
BBH FOR GLOBAL X ROBOTICS AND ARTIFICIAL INTELLIGENCE ETF	3,692	3.06
株式会社東芝	3,338	2.77
株式会社静岡銀行	2,980	2.47
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	2,907	2.41
THE BANK OF NEW YORK, NON -TREATY JASDEC ACCOUNT	2,851	2.36
株式会社三井住友銀行	2,682	2.22
東芝機械従業員持株会	2,473	2.05

- (注) 1. 当社は、自己株式を29,205,601株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
3. 株式併合前の平成30年9月30日時点の保有状況を記載しております。

### (5) 株式の分布状況



- (注) 1. 株式併合前の平成30年9月30日時点の保有状況を記載しております。  
2. 自己株式を含みます。

# 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行なっております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 単元株式数の変更および株式併合について

平成30年10月1日を効力発生日として、当社株式の単元株式数(売買単位)を1,000株から100株に変更し、同時に普通株式5株を1株に併合いたしました。



# 個人投資家向けHPのご案内



個人投資家の皆さまに当社へのご理解を深めていただくためのページをご用意しております。ご高覧の上、下記のアンケートにてご感想、掲載内容へのご意見等いただければ幸いです。

<https://www.toshiba-machine.co.jp/jp/ir/private/index.html>

## 株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード **6104**

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細<https://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-6779-9487(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com